

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第2号

- 1 病虫害名 ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* (Linnaeus)
- 2 発生作物 水稻
- 3 発生地域 山城地域（京都市伏見区、久御山町）
- 4 発生経過

平成22年10月、京都市伏見区の水稲において、ミナミアオカメムシが発生しているとの情報があった。そこで、10月5日及び7日に山城地域7地点の水稲ほ場ですくい取り調査を行った結果、5地点でミナミアオカメムシと思われる成虫及び幼虫を採集した(図1、2、表1)。採集した成虫及び幼虫を飼育して得られた成虫を同定した結果、全ての個体がミナミアオカメムシであることを確認した(参考文献1、2)。

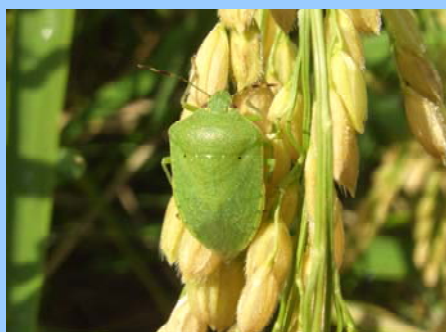


図1 ミナミアオカメムシ成虫

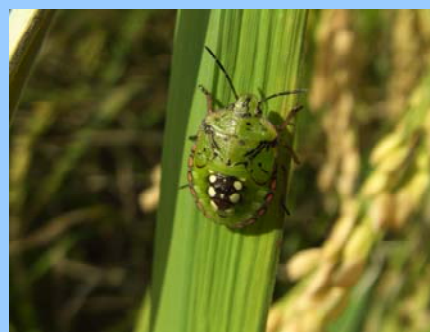


図2 ミナミアオカメムシ幼虫

表1 水稲ほ場におけるミナミアオカメムシ調査結果

| 調査地点 | 個体数(頭) | | |
|----------|--------|----|---|
| | 成虫 | 幼虫 | 計 |
| 京都市伏見区向島 | 0 | 3 | 3 |
| 京都市伏見区淀 | 1 | 2 | 3 |
| 同 | 2 | 1 | 1 |
| 同 | 3 | 4 | 9 |
| 久御山町御牧 | 1 | 4 | 5 |
| 同 | 2 | 0 | 0 |
| 八幡市内里 | 0 | 0 | 0 |

注) 調査日：平成22年10月5、7日

調査方法：捕虫網による20回振りすくい取り調査

本種は本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布する。平成14年以降、福岡、大分、静岡、島根、山口、佐賀、愛知、香川、広島、兵庫の各県で特殊報が発表されているが、本府では初確認である。

5 形態

成虫の体長は12～16mm、アオクサカメムシに似ているが、体がより縦長なこと、前胸背側角の突出が弱いこと、触角第3～5節の前半部が褐色（アオクサは黒色）であること、腹部背面（翅の下の腹板）が緑色（アオクサは基部2～4節が黒～黒褐色）であることなどで識別できる。体色は一様に緑色をしているが、多くの遺伝的変異がある。

6 生態

年3～4世代を経て、成虫で越冬する。水稻収穫後の二番穂（ひこばえ）等で繁殖し、その後畦畔などのイネ科植物等の枯れ株の間や積みわらの中、常緑樹の樹冠部など様々な場所で越冬する。越冬成虫は4月上旬頃から活動を開始する。なお、府内での越冬は未確認である。

7 被害の特徴

- (1) 広食性で、水稻、大豆、野菜類、果樹類等32科145種の植物を吸汁することが知られている。
- (2) 水稻では主に穂を吸汁し、斑点米を発生させる。他の斑点米カメムシ類に比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなる。

8 防除対策

耕種的防除：本種は水稻収穫後も二番穂等で繁殖し、その後越冬場所に移動するため、本種の発生地域では収穫後早めに耕耘して生息場所をなくす。

薬剤防除：必要に応じて、各作物のカメムシ類に登録のある農薬を散布する。

9 参考文献

- 1 小林尚・立川周二（2004）カメムシ上科の卵と幼虫－形態と生態－，中央農業総合研究センター，pp. 323.
- 2 安永智秀・高井幹夫・山下泉・川村満・川澤哲夫（友国雅章監修）（1993）日本原色カメムシ図鑑，全国農村教育協会，pp. 380.